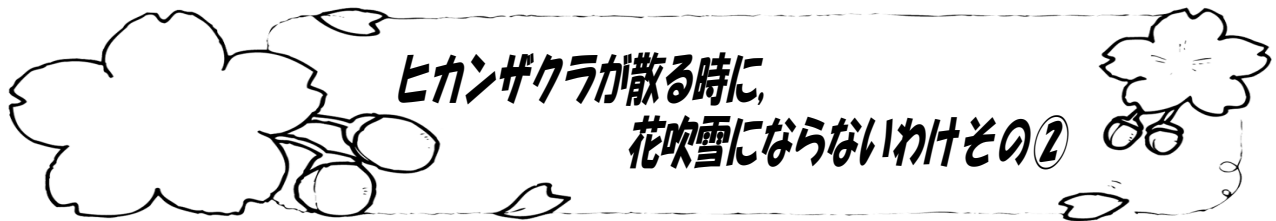


Welcome to the サイエンス・ワールド!!

2012, 4, 4(水)
第2号

那覇市立教育研究所
理科通信



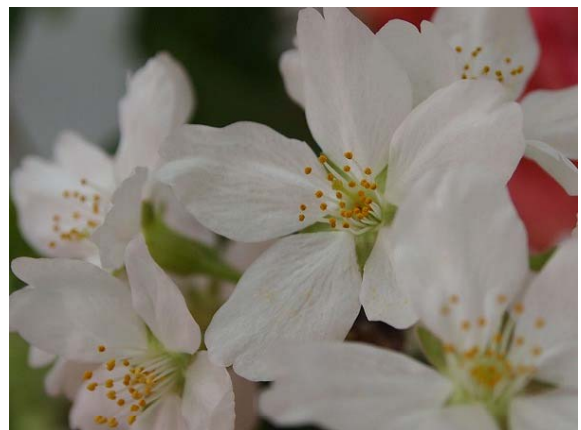
ヒカンザクラが散る時に、 花吹雪にならないわけその②

さて、ヒカンザクラに比べ、本土でよく見かけるサクラは・・・。

右の写真は、研究所の第98期研究員入所式の盛り花の中に入っていたサクラ（ソメイヨシノ）の花。花弁を一枚ずつ丁寧に外してみると・・・。

完全な離弁花（りべんか/花びらが一枚一枚離れている）になっています。

それで、花が散るときに、花弁が一枚一枚風で飛ばされていくのです。



ヒカンザクラと違い、ハラハラ散る桜吹雪はこのタイプの花のつくりをしているのです。ここでは、ソメイヨシノを例にあげましたが、エドヒガンやサトザクラ、ヤエザクラ、オオシマザクラ、カワツザクラなども同様な花のつくりをしています。



しかし近年、右の写真のように、ソメイヨシノの花が萼（がく）ごと落ちる様子が確認されています。これは、メジロやヒヨドリな



どが蜜のたまっている萼筒ごと食いちぎることで起きる現象のようです。通常は、ハチなどの小さな昆虫や口器の長い昆虫が花粉の媒介者になるのですが、毛虫の出現がまだ多くない春先には、サクラの蜜は鳥たちにとって魅力的な食材なのでしょう。
(文責：玉村かおり)